

1971 年度版小学校国語科教科書における読書指導のあり方

Adoption of Teaching for the Reading of Japanese Language Textbooks for Elementary Schools in the 1971 Edition

中嶋真弓 (Mayumi NAKASHIMA)

This essay focuses on the reading curricula for elementary school students, from first to sixth grade, using Japanese language textbooks published in 1971 by five textbook publishers. This essay organizes and analyzes the contents from three viewpoints: the characteristics of the curriculum and the educational material, guidance for learning, and methods of systematic curriculum teaching. Consequently, this essay clarifies how reading guidance was provided in the 1970s. The findings were as follows: A reading curriculum was assigned for each grade in order to learn independently; and a special section was set up to introduce good books so that students would read them.

1. はじめに

1968年(S43)7月3日文部省から小学校学習指導要領が告示された。当時の国語科教育は、1958年(S33)の小学校学習指導要領¹で経験主義による学力低下が危惧され、読書指導以上に、読解指導が重視されていたが、1968年の告示により、読書指導が再びクローズアップされることとなった。それは、『小学校指導書国語編』²にある次の文言からも分かる。

(3)では、主として読書指導を通して指導する場合の指導事項を示した。そうすることによって、いわゆる読書の指導を強調するとともに、他教科や学校図書館における読書の指導との関連にも注意するよう指示している。(波線 筆者)

指導事項を明確にすることによって、読書指導の充実を図ることができるようにしたのである。(表1)に、1968年の学習指導要領³から読書の目標並びに指導事項を整理してみた。

学年	読書の目標	指導事項
1年	やさしい読み物に興味をもつようにする。	ア やさしい読み物に興味をもつこと。 イ 文章に書かれていることの中で興味のあるところを見つけ出すこと。 ウ 場面の様子を想像しながら読むこと。
2年	やさしい読み物を進んで読むようにする。	ア やさしい読み物を進んで読むこと。 イ 好きなどころや興味をもったところを見分けたり、それらを人に伝えたりすること。

		<p>れらを人に伝えたりすること。</p> <p>ウ 人物の性格や場面の様子を想像しながら読むこと。</p> <p>エ かなり長い文章でも終わりまで読もうとすること。</p>
3年	いろいろな読み物を読もうとする態度を養う。	<p>ア いろいろな読み物を進んで読むこと。</p> <p>イ 読んだ内容について感想をもったり自分ならどうするかなどについて考えたりすること。</p> <p>ウ 人物の気持ちや場面の情景を想像しながら読むこと。</p> <p>エ 読んだ内容について話し合い、ひとりひとりの感じ方や考え方には違う点があることに気づくこと。</p> <p>オ 長い文章でも終わりまで読み通すこと。</p>
4年	読む量をふやすとともに読書の範囲を広げようにする。	<p>ア 読みとった事がらについて感想や意見をもつこと。</p> <p>イ 表現に即して場面やその情景を思い描くこと。</p> <p>ウ 読みとったことについて話し合い、ひとりひとりの受け取り方の違いについて考えること。</p> <p>エ 本を読んで必要な知識や情報を得ること。</p> <p>オ 内容を理解しながら、速く読むようにすること。</p> <p>カ むずかしいと思う文章でも読み通す態度を身につけること。</p>
5年	読み物を自分で選択することができるようにする。	<p>ア 読んだ本の内容に対して感想や意見をもつこと。</p> <p>イ 人物の気持ちや場面の情景が書かれている箇所について味わって読むこと。</p> <p>ウ 書き手のものの見方や考え方について考えること。</p> <p>エ 自分の読書のしかたを反省してその向上を図ること。</p> <p>オ 調べるために読むこと。</p> <p>カ 読む速さを増すようにすること。</p>
6年	適切な読み物を選んで読む習慣をつけるようにする。	<p>ア 本を読んで自分の感じ方や考え方がどのように変わったかを考えてみること。</p> <p>イ 描写や叙述のすぐれた箇所を読み味わうこと。</p> <p>ウ 自分の生活や意見と比べながら読むこと。</p> <p>エ 調べるために読み、結論をまとめて課題の解決に役立たせること。</p> <p>オ どんな本がよいかを見分け、目的に応じて適切な本を選ぶこと。</p> <p>カ 目的に応じて適切な速さで読むこと。</p>

本小論は、1968年学習指導要領の告示に伴い、改訂された1971年(S46)度使用開始小学校国語教科書(以後1971年度版と記す。)を中心に、どのように国語科教育の中で読書指導が

なされたかを分析するものである。なお、対象教科書は、1971年度版発行社〔日書〕・〔東書〕・〔学図〕・〔教出〕・〔光村〕の5社の第1学年から第6学年の教科書⁴とする。

2. 教科書教材に見られる読書指導のあり方

対象教科書の第1学年から第6学年に見られる読書に関わる教材の「単元名」を(表2)に記した。なお、第1学年においては、読書の働き掛けがある単元を中心に整理した。

学年		〔日書〕	〔東書〕	〔学図〕	〔教出〕	〔光村〕
1年	上	●むかしばなしをよむ *たいくとおこころく		●たのしい本 *いろいろな本		
	下		●よみましょう *いっすんぼうし *おかあさんのあんでくれ たぼうし		●ききましょう *金のおの	●ようすをおもうかべながらよみましょう。 うくじらぐも ●いろいろな本をよみましょう。 *チェックとタック
2年	上	●読書 *おもしろい本・すきな本 ●話し合う *学びゆう文こ	●どくしよをしよう *花いっぱいになあれ	●赤いろうそく	●本をよむ *三びの目じるし ●聞く・話す じょうずな そうだん *図書がかり	●読みのをすんで読みましょう。 *オオした茶わん ●読んで思ったことを書きましょう *「ないた赤おこ」を読んで
	下	●読書 *いろいろな本を読もう	●読書をしよう *さるの手ぶくろ ●読書をしよう *小さな青いきかん車と牛	●たのしい本 ●森のうぐいす	●本を読む *ピノキオ	●ようすや気持ちを思いかべながら読ま ましよう。 *みかんの木の寺 ●長いお話をかわりまて読みましょう。 *白い馬
3年	上	●読書 *読書ノート ●したことを書く *新しい図書館	●話し合いをする *学級文庫について ●読書をしよう *かみみの中の犬	●花とひみつ	●本を読む *ふしぎなふるしきづつみ	●自分のこととくらべながら読もう。 (でん記) *自分のこととくらべて *子どものころのフェアブル
	下	●本を読む *ピノキオ ●読書の感そうを書く *「かぐやひめ」を読んで	●読書の感そうを書く *「ないた赤おこ」を読ん で ●読書をしよう *海さちひこ山さちひこ	●楽しい読書 *アフリカのたいこ *本を教えあひましよう ●本の始まり ●手ぶくろを買いに *わたしのかんそう	●本を読む *幸福の王子	●読んで感そうを待とう。(事実物語) *くわしくそうぞうしながら *とらの子のおかあさん ●自分から進んで読もう。(物語) *いろいろな読み物 *アフリカのたいこ
4年	上	●本を読む(一)	●話し合いをする *「インソップ物語」を読ん で ●読書をしよう *いざかの狂縁	●王さまの新しい服 ●読書のためこ ●読書の感想	●本を読む *『クオレ』を読んで	●読み取ったことについて考えてみよう。 (伝記) *読書のあとで・読書案内 *山田耕祥 ●読んで思ったことを書こう。(感想文) *読書感想文を書くには *『藤島十集』を読んで
	下	●読書の感想を書く *『ぼくらの教室ライブ ン』を読んで ●本を読む(二) *同じ本を読んで	●読書をしよう *空音さんと雲のけいさん ●読書の感想を書く *「十五少年漂流記」を読 んで	●楽しい読書 *ひとりでのたけ問題 *いろいろな本を読もう ●読書のためこ ●月の輪くま *読書のためこ	●本を読む *区書の利用	●いろいろな読み物を読もう。(報道文) *読みのみによって *ベッケン/67 ●自分の力で読書ようこしよう。(物語) *読書通すむぎ・読書案内 *ごんきつね
5年	上	●読書 *物語を明けて読書のため に	●読書をしよう *平泉の万寿筆	●レナド *読書のためこ	●本を読む 読書の広がり *本の英ゆう *歌の丸こ	●読んで感想をまとめよう。(伝記) *もの見方・考え方を・読書案内 *ストウ夫人
	下	●感想文を書く(一) *古いものと新しいもの ●本を読む ●感想文を書く(二) *おとうさんと本	●読書をしよう *大造じいさんとがん ●感想文を書く *なにこについて、どう思 たか ●読書をしよう *深海をさぐる	●豊か読書 *一万一千メートルの深海 へ *文字の歴史 *いい本を選ばう *読書のためこ ●気ノメツ火山弾 *読書のためこ	●本を読む *いのお作りを助けてくれた 本	●事実を確かめながら深く読もう。 (事実物語) *調べるために *ネパールにいかかへ ●読書のしかたをくふうして読もう。 (物語) *速く正確に読書・読書案内 *少年現伝夫
6年	上	●読書感想文 *本の読め方 ●本を読む(一) *読書の速さ ●感想文を書く(一) *親切ということ	●読書をしよう *宇宙へ ●説明文を読む *図書館	●最後の授業 *読書のためこ	●本を読む *石段の思いで	●人物の考えや業績を読み取ろう。(伝記) *読んで考える・読書案内 *福島錦吉

下	●本を読む(二) ●感想文を書く(二) *友情について	●読書をしよう *おじいさんのランプ ●感想を書く ●読書をしよう *くもの糸	●豊かな読書 *本とのめぐりあい *大自然いどむ *読書のために ●いわおの顔 *読書のために	●作文 *読書の感想	●いろいろな読み物を選んで読もう。 (報道文・事実物語) *読書の楽しさ *白い大陸の長い道 *極点の旗 ●良書に親しみ、生活を高めよう。(物語) *良書を選んで・読書案内 *最後の授業
---	-----------------------------------	---	--	---------------	--

また、〈表3〉には、1961年(S36)度使用開始小学校国語教科書(以後1961年度版と記す。)に見られる読書に関わる単元名を整理してみた。

年	日書	陳書	学図	教出	光村
1年	●おはなし	●おはなし	●よみましょう ●本を読もう	●昔話 ●童話 ●おはなし	●おはなし ●ひとりでよみましょう ●よくよんで
2年		●たのしい本		●本を読もう	
3年	●読者のしき	●学級文庫		●読書ノート ●読んで作る	●読んだあとで
4年	●長文を読む ●読んで話し合おう		●広く読もう	●図書館	●調べるために ●楽しむために
5年	●知る喜び ●感想文を書く	●本で調べる ●テレビと読書	●知識を求め ●考える読書 ●読書と生活	●夏休みの読書 ●夏休みの学習 ●調べる読書	●いろいろな読み物を ●読書の喜び ●読み物によって
6年					

1961年度版は、1958年学習指導要領告示に伴い改訂された教科書である。比べてみると、1971年度版の方が読書に関わる単元が圧倒的に多く、学年ごとに同名の単元や同様の内容のものを位置付け、系統的な指導がな

されていることが分かる。また、5社中〔学図〕〔光村〕では、教科書の単元名の所に「本を開いた絵」が提示されており、読書単元であることを意識付けるものも見られた。これは、1961年度版には見られなかった提示方法である。

そこで、本章ではそれぞれの単元でどのような内容が採録されているかを発行社ごとに分析していく中で、読書指導のあり方を整理し、指導の系統性を見ていくものである。

1) 〔日書〕に見られる読書指導のあり方

〔日書〕では、「①読書」「②本を読む(「読書論を読む」の単元も含む)」「③読書の感想文を書く」の3つの単元を中心として読書指導がなされている。「①読書」の単元は、第2学年上下・第3学年上・第5学年上に、「②本を読む」は、第3学年下・第4学年上下・第5学年上・第6学年上下に、「③読書の感想文」は、第3学年と第4学年の下にそれぞれ位置付いている。それでは、それぞれの内容を見ていくこととする。

先ず、「①読書」「②本を読む」の単元について〈表4〉に整理してみた。

学年	①読書	②本を読む
1 上		単元名 むかしばなしをよむ

年			<p>*だいくとおにろく</p> <p>◇手引きの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの昔話を読む。 ・色々な種類の本を読む。 ・読んだ本名を書く。 ・好きなところやおもしろいところを友達に話す。
2年	上	<p>*「おもしろい本・すきな本」</p> <p>◇おもしろい本や好きな童話に目を向けて読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すきな本等の名前をカードに書く。 ・みんなに知らせる。 	
	下	<p>*「いろいろな本を読もう」</p> <p>◇学級文庫や図書館を活用して、いろいろな分類の本を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な本名の提示 	
3年	上	<p>*「読書ノート」</p> <p>◇読書ノート指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く内容の提示 ・読書会の位置付け 	
	下		<p>*ピノキオ</p> <p>◇長いお話の本を読む。</p>
4年	上		<p>*（教材名はない）</p> <p>◇いろいろな種類の本を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館での本の探し方 ・日本十進分類法の提示
	下		<p>*同じ本を読んで</p> <p>◇一人一人の受け取り方の違いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ本を読んでの読書会及び読書ノートの活用
5年	上	<p>*「物語を味わって読むために」</p> <p>◇作品を読み味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の見方を提示 	<p>*（教材名はない）</p> <p>◇調べるための本の読み方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探す方法 ・分類番号、書名、目次、索引の活用 ・調べるために必要な本の読み方

6 年	上	<ul style="list-style-type: none"> * 読書論を読む 本の読み方 ◇ 清水幾多郎の文章を読み、目的に応じた適切な本の選び方を知る。 * 読みの速さ ◇ 目的に応じて読む速さの違いを知る。
	下	<ul style="list-style-type: none"> * (教材名はない) ◇ 課題解決のための本の利用の仕方を理解する。 ・ 図書館資料の効果的な活用の仕方

次に、「③読書の感想を書く」の単元では、第3学年下「*えんとつの役目 *『かぐやひめ』を読んで」と第4学年下「*ぼくらの教室フライパン」がある。前者は2つの感想文が提示されその書き表し方を話し合いながら、どのように書くのがよいかを考えさせる単元である。また、後者は、3つの感想文を提示し、それを3つの観点から話し合わせ、書くことの中心と書き表し方を考えて感想文を書く単元である。

〈表4〉及び「③読書の感想を書く」の内容から、次のことが言えるのではないだろうか。

「①読書」の単元では、読みもの教材は採録されておらず、読書に関わる直接的な内容を記し指導を行っている。つまり、最も読書の基本的な内容の指導がなされているのである。低学年で多くの本と出会い、さらに、いろいろな本を読み、整理、発信し、読書の楽しさを体感させていく。そして、3年生の早い段階で、その習慣化を図り、発達段階に応じて、5年生の段階で、より深い作品への迫り方を指導するのである。

「②本を読む」の単元では、「読書」の単元を受け、中学年では、自力で本を選び出す方法を含めて具体的指導がなされている。また、友達との読みを比べることによって、一人一人のものの見方や考え方を知る学習も行われている。さらに、高学年では「調べ読み」を中心とした指導がなされていることが分かる。

また、「③読書の感想を書く」の単元では、いくつかの読書感想文を提示し、その書き表し方の特徴を考えさせよい書き方を理解した上で、実際に自分達の感想文を書いてみるという方法がとられている。

まとめて言うならば、これらの単元では、多くの作品に触れるという指導よりも、本を読みその楽しさを発信し、より自分の読書の幅を広げていったり、より目的にあった本を探すための見方や方法を指導したりする内容が中心に据えてあると言える。

2)【東書】に見られる読書指導のあり方

【東書】では、「①読書をしよう」「②読書の感想を書く」の2つの単元を中心として読書指導がなされている。「①読書をしよう」は、第2学年から第6学年の上下の教科書に必ず1単元位置付けられている。また、この単元の最後に第4学年下「読書会を開こう」、第5学年以降は「読書のために」という小項目の教材が位置付けられている。

「②読書の感想を書く」は、第3学年下と第4学年下に位置付けられている。それでは、そ

それぞれの内容を見ていくこととする。

先ず、「①読書をしよう」の単元の内容を〈表5〉に整理してみた。

〈表5〉		〔東書〕に見られる読書単元の内容		*教材名	◇学習内容	、具体的指導
学年		①読書をしよう（◇印、・印の内容は、筆者が整理したもの。）				
1年	上		下	単元名	よみましよう	
					*いっすんぼうし	
					*おかあさんのあんでくれたぼうし	
				◇	いろいろなおもしろいお話を読む。	
2年	上	*花いっぱいになあれ ◇おもしろい童話を読む。 ・今まで読んだ童話の中でおもしろかったものについて友達に話す。	下	*さるの手ぶくろ ◇おもしろい童話を選んで最後まで読む。 *小さな青いきかん車と牛 ◇おもしろい童話を読み、友達に話す。		
3年	上	*かがみの中の犬 ◇いろいろな本を読む。	下	*海さちひこと山さちひこ ◇読んだ本の発表会を開く。		
4年	上	*はだかの王様 ◇読書記録を作る。	下	*空高さんと雲のひげさん ◇読書会を開く。 ・読書会の内容を深める視点の提示 ・読み取りの違いを話す。 ・同じ内容の本を読み比べる。 等		
5年	上	*形見の万年筆 *読書のために ◇いろいろな物語を読んで、感想を書き発表する。 ・感想を豊かにする視点の提示	下	*大造じいさんとがん *読書のために ◇この物語を読んだことのない人に、紹介する文章を考える。 ・読書ノートの書き方の視点提示 ・互いの感想を比べて自分の考えとの違いを理解する。 *深海を探る *読書のために ◇もっと知りたいことを調べる。 ◇読書生活の振り返り（チェック観点：読書傾向の偏り、調べる姿勢、読み通す姿勢、読む速度）		
6年	上	*宇宙へ（手引きの内容はない） *読書のために ・「旅行記・探検記・発明の話・めずらしい経験の記録」等を読んでみる。	下	*おじいさんのランプ（手引きの内容はない） *読書のために ・読書発表会をする。 ・発表会の内容や方法を工夫するための具体的なアドバイス		

	<ul style="list-style-type: none"> ・本を選ぶ時の注意を提示 	<ul style="list-style-type: none"> *くもの糸（手引きの内容はない） *読書のために <ul style="list-style-type: none"> ・読書生活の振り返り（読書傾向の偏り、読書時間） ・「愛読書」の交流
--	--	--

次に、「②読書の感想を書く」の単元は、第3学年下と第4学年下に位置付いている。第3学年下「*『ないた赤おに』を読んで」では、3人の書き方を参考に、自分達も感想を書いてみる学習が行われ、第4学年下「*『十五少年漂流記』を読んで」では、感想を書いて読み合い、あらすじのまとめ方や書き方で工夫したところを話し合うという学習を設定している。

「①読書をしよう」「②読書の感想を書く」の単元から、次のことが言えるのではないだろうか。「①読書をしよう」の単元では、採録している文学的な文章等を教材名として掲げ、採録されている教材を読んだ上で、〈表5〉の◇印で記した「手引き」の内容によって、読書について考えさせるようにしている。第1・2・3学年では、いろいろな本を読むように働き掛け、第4学年からは、読書した事柄の整理の仕方や発信の仕方の指導を充実させていることが分かる。また、高学年に入ってから、読書単元の後に「読書のために」を位置付け、指導を行っている。「読書のために」では、具体的な視点をもって読書に臨むことができるようにしている。これらの単元では、利用指導的な内容ではなく、読書の姿勢やより楽しく読むために必要な事柄、ものの見方や考え方の多様さを学ぶ単元として位置付けられていると言える。それは、第4学年「読書発表会」の内容を見ても分かる。

○読書会では、次のようなことをしてみましよう。(1)同じ本を、みんなで読んで、読みとり方のちがいを話し合う。(2)同じ事柄について書いた何さつかの本を、読みくらべて話し合う。(3)読んでためになった本を、みんなでしようかいし合う。(4)読んだ本をしようかいする文章を書き、友だちに読んでもらう。

○ときには、グループで次のような活動をすることもよいことです。(1)みんなが、どんなしゅるいの本をどのくらい読んでいるか調べて、発表する。(2)図書館の見学をする。(3)読書にかんけいした文しょうや新聞を発行する。

また、これらの単元には「読書会」などの発信方法が具体的に記述されており、第2学年「友達に話す」→第3学年「発表会」→第4学年では、整理方法として「読書の記録」への働き掛けがあり、それを書いた上で第5学年「よい本の紹介交流」、第6学年「読書発表会」が位置付けられている。

3) [学図]に見られる読書指導のあり方

[学図]では、「①楽しい読書・豊かな読書（本を読もう・読書のために）」「②読書の感想」の2つの単元を中心として読書指導がなされている。「①楽しい読書・豊かな読書（本を読もう・読書のために）」の単元は、第1学年では「たのしい本」として上に、第2学年～第6学年では下に位置付いている。第1学年「たのしい本」では、教材名「いろいろな本」が載っており、教師と子ども達の対話形式で、「～の本を読みました。」と子ども達が自分の読んだ本名

を紹介している。第2学年以降のこの単元では、読みもの教材とともに、本に関わる内容の短い説明文が採録されており、最後に2段組の頁を設けて、上段に「手引き」と下段に「本を読もう」または作者紹介を位置付け、次頁に「読書のために」を提示している。「本を読もう」「読書のために」は、本の紹介である。紹介されている本は、その単元の作者のものやテーマに関わったものが中心である。なお、「読書のために」の本の紹介は、これ以外の単元の読みもの教材の後にも位置付いている場合がある。「②読書の感想」は、第4学年上のみに見られる。

それでは、それぞれの単元の内容を見ていくこととする。

まず、「①楽しい読書・豊かな読書（本を読もう・読書のために）」単元の内容を〈表6〉に整理してみた。なお、冊数とは、その単元内で「本を読もう」「読書のために」に紹介されている本の合計を記したものである。

〈表6〉[学図]に見られる読書単元の内容			◆◇印の内容は、筆者が整理したもの。	
学年	単元名	教材名	◆教材の内容 ◇手引きの内容	冊数
1	上	たのしい本 *いろいろな本	◆教師の「どんな本を読んだか」の問いに対して、3名の児童が、それぞれ読んだ本の題名を話す会話形式。	3
2	下	たのしい本 *海の楽たい	◆（作品の後に）「本は、お話の中に引き入れてしまう力がある」の文言が見られる。	3
3	下	楽しい読書 *アフリカのたいこ *本を教えあいましょう	◇美しいところや好きなどころを声に出して読む。 ◆自分が読んでおもしろかった3冊の本を、メモに書いて黒板に張り出す。	5
4	下	楽しい読書 *ひとりでとけた問題 *いろいろな本を読もう *読書のために	◆日本十進分類法が提示されており、「本の種類に目を向けましょう。」とある。また、「読書の力は、ぐんぐんのびていく」ともあり、本を読む意義について記されている。	7
5	下	豊かな読書 *一万一千メートルの深海は	◇記録文や説明文の本は、知識を豊かにしてくれる。童話や物語だけでなく、この方面の読書の	4

			<ul style="list-style-type: none"> *文字の歴史 *いい本を選ぶには *読書のために 	<p>力を付ける。</p> <p>◆おもしろそうな本を多く読み、 その中で心の奥底に触るよ うな本がいい本である。</p>	
6	下	豊かな読書	<ul style="list-style-type: none"> *本とのめぐりあい *大自然にいどむ *読書のために 	<p>◆本との出会いのすばらしさが 述べてある説明文</p>	9

付記するが、「読書のために」は、前述したように、上記の「楽しい読書・豊かな読書」以外の読書単元（これらの読書単元は、作品を読むことが中心の単元として位置付いている。）にも見られるが、そこで紹介されている本の総計は、42冊であり、〈表6〉の紹介本の31冊と合わせると、73冊の本の紹介が第1学年～第6学年でなされている。

次に、「②読書の感想」の単元は、第4学年上「単元名 読書の感想 考えをはっきりさせて書く」で採録させている。この単元では、感想文を書く手順として「①筋の大事なところをメモに取る。②①をもとにあらすじをまとめる。③一番心に残った所を、短い言葉でまとめ一口感想を書く。④③をもとにした感想文を書く。」とあり、その手順に従った例がそれぞれ載っている。最後に、まとめ方の方法として、「読書ノート」例もある。

「①楽しい読書・豊かな読書」「②読書の感想」を見てきたが、次のようなことが言えるのではないだろうか。「①楽しい読書・豊かな読書」では、読みもの教材の他に短い説明文が採録されていると前述したが、その教材名を見てみると「いろいろな本」（1年）→「本を教えあいましょう」（3年）→いろいろな本を読もう（4年）→いい本を選ぶには（5年）→本とのめぐりあい（6年）である。正に、教材名そのものが系統的指導を物語っていると言える。第1学年も含めて読んだ本の紹介から始まり、多くの本を読み、その中から自分にとっての良書を見付け出す、または、それと出会うようにする、そして、出会った本は人生を豊かにするものといった一連のストーリーを見ることができるようである。また、内容においても、第4学年下で分類について触れてはいるが、[東書]同様、読書する意義やその価値についての指導が中心と言える。さらに、[学図]では本の紹介を「読書のために」という特別のコーナーを設定し紹介している。これは、1958年度版には見られない提示の方法⁵である。この提示の仕方は、後述する[光村]にも見られるが、読書の幅を広げる働きにつながると言える。そして、感想文指導では、手順を具体的に示し、それに沿った例文も載っており、児童もその方法に沿って学ぶことができるようになってきていると言える。

4) [教出]に見られる読書指導のあり方

[教出]では、「①本を読む」「②作文 読書の感想」の2つの単元が見られる。「①本を読む」は、第2学年上から第6学年上までほぼ全ての学年に採録されている。また、「②作文 読

書の感想」は第6学年下だけに採録されている。これら2つの単元を〈表7〉に整理してみた。

〈表7〉 [教出]に見られる読書単元の内容 (・印は、筆者が整理したもの。)		
学年	教材名	手引き等の内容
1年	下 金のおの	・(読み聞かせの単元で)感想や疑問に思ったことを思い浮かべながら聞く。
2年	上 三ばの目じるし	・あらすじや他のお話にどのようなものがあるか話し合ったり読んだりする。
	下 ピノキオ	・「読書カード」の書き方 ・「ピノキオ」の本を探し、全文を読む。
3年	上 ふしぎなふろしきづつみ	*記述無し
	下 幸福の王子	・「読書カード」を書いて友達と交流し、それらの本を読む。
4年	上 『クオレ』を読んで	・短い感想を書き、話し合う。
	下 図書館の利用	・日本十進分類法と目次・索引の説明
5年	上 読書の広がり	・読書の経験について、反省し読み物の範囲を広げる。
	下 いね作りを助けてくれた本	・調べるために本を利用する。
6年	上 石段の思いで	・自分の考えを深め、自分の生き方を発見していく。
	下 読書の感想	・読んだ本の感想を書き、自分の生活や考え方を反省する。

〈表7〉から、次のことが言えるのではないかと考える。教材名は、そこに採録されている作品名をとっている。これは、[東書][学図]の提示と同様である。第1学年から第4学年上までは、いろいろな本を読み、「読書カード」や「短い感想」にまとめたりしながら友達と話し合う活動が位置付けられており、第4学年下からは、より幅の広い読書、自分の生活を豊かにするための読書について学んでいく学習が位置付けられていると言える。自分の生き方と読書を結び付けて考えていこうという働き掛けも見ることができる。

5) [光村]に見られる読書指導のあり方

[光村]では、〈表2〉からも分かるように他の発行社と違い、単元名をより具体的な内容で提示している。その中で、多くの学年で共通する教材「読書案内」が採録されている単元を中心にその指導のあり方を見ていくこととする。「読書案内」は、[学図]の「読書のために」同様、本の紹介をするための特設のコーナーで、第4学年上から登場している。「読書案内」の位置付いている読書単元は、複数の教材が採録されており、その配列も、最初に読書についての短い説明文を載せ、その後に「読書案内」が続き、最後にその単元で読ませたい作品が掲載されている。その内容を〈表8〉に整理してみた。なお、冊数は、「読書案内」に紹介されている本の数である。

〈表8〉 [光村]に見られる「読書案内」が位置付いている読書単元の内容 (◆◇印の内容は、筆者が整理したもの。)				
学年	単元名	教材名	◆内容 ◇手引き内容	冊

				数	
4年	上	読み取ったことについて考えてみよう。(伝記)	*読書のあとで *読書案内 *山田耕筈	◆読書ノートの意義 ・書く内容提示 ◆伝記・童話・物語の本紹介 ◇夏休みいろいろな本を読み「読書ノート」に残し、それをもとに、発表。	5
	下	自分の力で読むようにしましょう。(物語)	*読み通す喜び *読書案内 *ごんぎつね	◆根気強く読んでこそ喜びも大きい。 ◆童話・物語・事実物語の本紹介 ◇すきな本を読み通し、読書発表会をする。	4
5年	上	読んで感想をまとめよう。(伝記)	*ものの見方・考え方を *読書案内 *ストウ夫人	◆伝記などを読み、その人の生き方に学ぶ。 ◆「読書座談会」の一例提示。 ◆伝記・物語の本紹介 ◇人物の生き方や考え方についてまとめ発表し合う。	5
	下	読書のしかたをくふうして読もう。(物語)	*速く正確に読む *読書案内 *少年駅伝夫	◆速く読む力を付け、限られた時間内で多くの本を読む。 ◆物語・事実物語の本紹介 ◇速く読む練習をする。 ◇よい本を選んで読んだり、目標を決めて多くの本を読んだりする。	4
6年	上	人物の考えや業績を読み取ろう。(伝記)	*読んで考える *読書案内 *福沢諭吉	◆読書の際、作品の内容を考え、自分の考えをもつことが重要であるとともに、価値ある本を見つけるために多くの本を読むことが大切。 ◆伝記・物語の本紹介 ◇自分の感想や考えをまとめ発表し合う。	5
	下	良書に親しみ、生活を高めよう。(物語)	*良書を選んで *読書案内 *最後の授業	◆自分を引き上げてくれるような読書をしたいと望んでいれば自然により書物を読むことにつながる。 ◇物語・事実物語の本紹介 ◇読書生活の振り返り ・6年間で強く心に残っている本 ・読書のしかたを振り返り、これからの読書について考える。	6

前述したように読書单元には、本を開いた絵が付けられており、「読書案内」が採録されて

いる単元もそれにあたるが、「読書案内」のコーナーはないが、読書単元として位置付けられている単元が11ある。これらの単元は、読みもの教材が中心で、手引きに読書への働き掛けが記されており、さらに、手引きの中にその単元と関わりのある本の紹介がなされている場合もある。ここで、それらの単元を手引きの内容をもとに、簡単に整理しておくこととする。

- ・第1学年：好きな本のことを話す・いろいろな本を最後まで読む。(6冊紹介)
- ・第2学年：お話の本を進んで読む・読んだ本についてみんなに話す。
 - ：本を読み終わったら、「本名・登場人物・おもしろかったこと」を書く。
 - ：いろいろな国のお話を読む。(6冊紹介)
- ・第3学年：伝記を読み、その人達の考えやどのような行いをしたか読み取る。(5冊紹介)
 - ：本を読んで思ったことを話し合う。いろいろな本を選んで読む。(11冊紹介)
- ・第4学年：心に残っている本を紹介し合う。
- ・第5学年：本文に「調べるために本を読むこともある(中略)調べるために読むには、なんのために何を調べるのかをはっきりさせ、目的や必要にぴったり合った本を選び、必要な内容を正確に読み取るようにすることがたいせつです。」とある。ここでは、調べ読みについて書かれている。
- ・第6学年：本文に「書物は、その人の求めているものは何かを教えてくれるし、心を満たしてくれるはずです。自分の求めるものを書物の中に発見したときの喜び・・・」とある。ここでは、読書の楽しさ、構えが書かれている。
 - ：図書館で事実物語(探検物語・発明発見物語など)を読み、感想を発表し合う。

読書感想文の指導では、次のような系統的指導が見られる。

◇第2学年上：●読んで思ったことを書きましょう。 *「ないた赤おに」を読んで

- ・お話の本を読んで、作文を書く。
 - ・あらすじとあったこと
 - ・出てくる人についてあったこと
 - ・自分のことと比べてあったこと

◇第3学年下：●読んで感そうを持つ。 *くわしくそうぞうしながら

- ・本を読んで、思ったことを話し合う。

◇第4学年上：●読んで思ったことを書こう。 *読書感想文について *「椋鳩十集」を読んで

- ・メモを使って読書感想文を書いてみる。・夏休みに本を読み、読書感想文を書く。

以上、読書単元と読書感想文について見てきたが、次のことが言えるのではないだろうか。

「読書案内」の採録されている単元では、第4学年で「読書ノート」という整理の仕方を指導し、その後、読む喜びや読書によって学ぶことができることについて触れ、よりその読書を充実し人生への一助となるために読み方や見方・考え方、さらには良書について述べ、児童達に考えさせながら読書への姿勢を身に付け、読書生活の習慣化を目指していると言える。そして、それは、第2学年から第3学年にある単元からも分かるように、読書に親しむ時期を確保し、「読書は楽しい」という思いを感得させた上での指導がなされていると言える。また、「読書案内」のコーナーを位置付けていない読書単元においても、幅を広げる読書への働き掛けや

「調べ読み」の大切さについて学ぶようにしている。これらの単元が相互補完の関係を保ちながら、児童の読書生活を具体的な方法で提示したり、心を豊かにするように働き掛けたりしていくことによって、充実させていくようにしていると言える。そして、感想文指導では、段階を追って繰り返し考えながら、自分の考え作りができるようにしていると言える。

第4学年から位置付けられた「読書案内」は、前述したように〔学図〕同様の本の紹介がなされているが、そこで紹介された本の総数は〈表8〉より29冊である。付記するが、ここに記した以外の単元の手引きに本の紹介をしている単元も4単元あり、そこでの本の紹介冊数の総数が23冊である。合計で52冊の本が第1学年から第6学年の中で紹介されていることとなる。

3. おわりに

5社の読書単元を中心に、内容や指導のあり方を見てきたのであるが、読書単元の内容を、〈表9〉に整理してみた。

〈表9〉 各発行社に見られる読書単元の内容					
学	〔日書〕	〔東書〕	〔学図〕	〔教出〕	〔光村〕
1年	・読む。 ・友達に話す。	・読む。	・読む。	・読む。(聞かせる。)	・読む。
2年	・読む。 ・友達に話す。 ・本名を書いて紹介する。	・最後まで読む。 ・友達に話す。	・読む。	・読む。 ・友達に話す。 ・読書カード	・いろいろな国の本を読む。 ・読書記録
3年	・長いお話を読む。 ・読書会 ・読書ノート	・いろいろな本を読む。 ・発表会	・声に出して読む。 ・本名を書いて紹介する。	・いろいろな本を読む。 ・友達との交流 ・読書カード	・いろいろな本を進んで読む。 ・友達との交流
4年	・本の探し方 *日本十進分類法 ・読書会 ・読書ノート	・読書会 ・読書記録	・本を読む意義 ・本の探し方 *日本十進分類法	・本の探し方 *日本十進分類法 *目次、索引 ・感想の交流	・読み通す楽しさ ・読書発表会 ・読書ノート
5年	・読み味わう ・調べるための読み方 ・本の探し方	・読書傾向の振り返り	・よい本を選ぶ方法 ・分類の幅を広げる読書	・読書傾向の振り返り ・調べるための読み方	・読書と生き方 ・読む速度

	*分類、書名、目次、索引	・感想の交流 ・読書ノート			・読書座談会
6年	・先人の読書に学ぶ。 ・課題解決のための本の活用 ・図書資料の活用	・読書生活の振り返り ・読書発表会	・本との出会いのすばらしさ	・生き方の発見 ・自己の生活や考え方の反省	・本との出会いの大切さ ・生活を高める読書 ・読書生活の振り返り

低学年では、子ども達の幼児期に慣れ親しんだと思われる昔話を中心として、先ず読書に興味をもたせるために多くの本に触れ、それを友達と共有したり、友達の読んだ本をまた自分で読んだりする活動が行われている。中学年では、「読む量や範囲を広げる」ために、本の探し方や日本十進分類法を具体的に示し、学校図書館との関連において、自分で本を探し出すための指導が中心になされていることが分かる。そして、高学年では、本を通して自分の生き方やものの見方・考え方を見つめ直したりする学習も行われている。読む楽しさを十分味わわせ、幅広い読書、質の高い読書への指導が各学年発達に応じてなされていると言える。

《引用文献・参考文献》

* 1 : 文部省『小学校国語指導書』二葉株式会社 1960.3.15 p20～p21

1958年告示の学習指導要領における読書指導の指導事項において、以下のような内容を『小学校国語指導書』に見ることができる。

読書指導に関しては、第1学年には記述がない(中略)第2学年の望ましい指導事項(「望ましい指導事項」とは、事情が許せばできるだけ指導することが望ましいということ:筆者補)の中には、「本や雑誌の読み方がわかること」が示しており、第3学年以上第6学年までの各学年の指導事項の最後には、1項ずつ読書指導に関する事項が示してある。

* 2 : 文部省『小学校指導書国語編』東京書籍株式会社 1973.12.10 p2

* 3 : 2に同書 p13 p158 p161 p165 p169 p173 p176

* 4 : 日本書籍株式会社『小学国語』1970 検定済

: 東京書籍株式会社『新しい国語』1970 検定済

: 学校図書株式会社『小学校国語』1970 検定済

: 教育出版株式会社『新版 標準国語』1970 検定済

: 光村図書出版株式会社『小学新国語』1970 検定済

(5社の発行者の第1学年～第6学年を活用)

* 5 : 拙稿「1961年度版小学校国語科教科書における読書指導のあり方」(愛知淑徳大学文学部論集編集委員会『愛知淑徳大学論集 文学部・文学研究科篇 第34号』2009.3) 参照